

# 山口県病院協会 会報

2013 **4月号** No.39

- 発行日 平成25年4月1日
- 発行所 社団法人山口県病院協会  
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 木下 毅
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



## 黒川病院

〒745-0811

山口県周南市五月町8番19号

電話 0834-32-2015

FAX 0834-31-8807

## CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2ページ
協会役員コーナー	3ページ
病院スタッフコーナー	4～5ページ
四県病院協会連絡協議会報告	6ページ
医療経営講習会報告	6ページ
研修会報告	7ページ
諸会議報告	8ページ
事務長部会コーナー	9ページ
お知らせコーナー	10ページ

## 会員病院紹介

### 病院長挨拶



黒川病院  
病院長 黒川 徹

当院は1979年9月に、実質脳神経外科単科の病院として前院長黒川健甫が徳山中央病院を退職し、開院しました。開院時には、当時の徳山中央病院院長で当協会会長でもあった坂本克己先生や外科部長（後に院長）の館林欣一郎先生に多大なご助力をいただき、スムーズな船出であったと聞いております。開院後も診療録の扱いやレセプト作業のノウハウも中央病院の事務員諸兄にご指導を賜ったこともあり、当時の徳山中央病院診療録の書式の一部が当院で未だ化石のごとく息づいております。

現在、周南地域の脳神経外科疾患に対する診療体制は、高度医療を担う徳山中央病院・周南記念病院の他、外来主体の脳神経外科クリニックもあり、地域内での診療がほぼ完結できる体制となっています。当院の役割は、『入院は必要、しかし高度医療を要するほどでは無い』といった、いわば中間層に属する患者様の受け皿となることです。とはいえ、情報化社会の流れの中で、患者様が一般診療に求める医学水準も高くなっており、当院でも最新鋭のCT、MRI、Angio装置、手術室、手術用顕微鏡を備え、日々の診療に臨んでおります。ハード面のみならず、月に一度病棟内で行う脳卒中勉強会を通じて人材の育成にも取り組んでいる所です。平成24年4月には病棟の新規建て替えも完了し、広く明るい病室で安心した入院生活を送っていただけるよう、スタッフ一同、日々研鑽している次第です。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

#### 〈黒川病院の現状〉

##### 1) 概要

〒745-0811

住 所 山口県周南市五月町8番19号

電 話 (0834) 32-2015 FAX (0834) 31-8807

開設者 黒川 健甫

院 長 黒川 徹

診療科 脳神経外科・外科・形成外科・整形外科・リハビリテーション科・  
放線科・麻酔科

病床数 50床

職員数 70人

##### 2) 沿革

昭和54年9月1日 個人開設の黒川病院【一般22床】として開院

※脳神経外科を専門

※頭部専用CT保有

昭和55年8月 病床数を50床に増床

平成2年9月 MRI棟を新築

平成15年9月 外来部門を分離独立させ、黒川医院（無床）を併設

平成24年4月 新病院建て替え（所在地、名称とも同じ）

##### 3) 特徴

昭和54年に脳神経外科を主たる診療科として開設。脳卒中診療の他、頭痛診療、認知症診療など頭蓋内疾患とその関連疾患を幅広く診療している。

## 協会役員コーナー

### オキシトシンの分泌される医療



社団法人岩国市医師会  
岩国市医療センター  
医師会病院

病院長 内山 哲史

患者本位の医療の質を目指して医療のTQM推進協議会があり、年1回フォーラム「医療の改善活動」全国大会が開催されています。平成24年の第14回大会は10月12日、13日沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開催されました。

会場のすぐ側には、普天間飛行場があり、ちょうど岩国からオスプレイが移動したところでした。

このフォーラムで座長を担当した演題の中に印象深いものがありました。それは、石巻港湾病院からのもので、「震災前の体制へ戻そう～訪問件数3000件を目指して～」という演題名でした。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の大津波により石巻市は甚大な被害を受けました。石巻港湾病院訪問看護事業所では、利用者164人のうち36人が死亡され訪問件数が3077件から1577件に半減しました。この為訪問看護事業所の存続の危機に直面しましたが、管理者から主任・責任者・現場スタッフまで全員で課題達成型のTQMとして活動し、利用者数が回復したというものでした。極限状態でも利用者のニーズに応えたい、笑顔が見えるようにしたいという強い思いから活動し、結果として利用者のたくさんの安心、笑顔を見ることができたということでした。発表中にスライドでたくさんの利用者の笑顔が写されました。

人の為に何かをしてあげると脳からオキシトシン（神経伝達物質、ホルモン）が分泌され、心に充足が与えられるといわれています。オキシトシンが分泌されるように医療に取り組みたいと思います。

### いつまでも改善されない「医師不足、医師の偏在」



宇部興産株式会社  
中央病院

病院長 福本 陽平

わが国で勤務医不足や医師の偏在が叫ばれるようになってから、かなりの時間が経過していますが、医療現場で感じる限り一向に改善される気配はなく、相変わらずの疲弊感が漂っています。政府は、大学教育を含めて医師一人の育成に多額の税金をつぎ込んでいますので、若手医師の診療科や勤務地の選択に関して、ある程度の枠を設定しても良い時期に来ているのではないのでしょうか。田中秀一氏（読売新聞社）の調査によれば、すでに欧米ではこれらの問題に対して国による計画的な政策が実施されていて、例えば、フランスでは、地域や診療科ごとに必要な医師数を国が調査し、病院ごとに受け入れる研修医の数を決定しているそうです。医学生は成績上位の者から希望する診療科や地域で研修を行うことができ、自分の希望通りの施設に配属される割合は一割程度とのこと。また、ドイツでは、医療圏ごとに人口あたりの医師数が決められていて、定数の110%を超える地域では保険医として開業ができないルールがあるそうです。米国でも、医療団体や市民が加わった協議会で、24

の診療科について専門医研修を行うレジデントの数や病院が選定されていることから、各診療科の専門医の数自体も調整されています。

医師にも職業（専門科）を選択する自由や、どこに住居するかを決める権利があります。しかし、医療は全ての国民に平等であるはずであり、“公共財”でなければなりません。この観点からすれば、ある程度の規制は必要ではないかと考えます。

## 病院スタッフコーナー

### 綿田内科病院管理栄養士として



綿田内科病院  
管理栄養士

古林 みね子

当院は、緑と花と彫刻の町、宇部市の中心地に位置します。

病床数39床の療養型で、患者さん、地域住民に対し、「思いやりある暖かな医療、信頼される医療」を基本理念とし、地域に密着した病院です。

私は、栄養士から管理栄養士として病院に勤務し30年以上が経ちました。患者さんに喜んでいただける安全でおいしい食事、思いやりのある暖かい食事の提供を目標に、直営の小規模な病院ならではの食事づくりを目指しています。

高齢化が進み、食事形態が複雑になり、食事内容も今まで以上の工夫が必要になっていきます。変化に富んだ食事づくりは大変ですが、花見弁当、七夕弁当などの行事食、手作りデザートは、毎回、患者さんに喜んでいただいています。

平成24年4月の診療報酬改定により、医療の基本診療に位置づけられた患者さん一人一人の栄養管理計画書の作成、チーム医療の一員としての安全対策委員会、褥そう対策委員会、院内感染委員会など病院に勤務する管理栄養士の役割は大きく変化してきました。当院では昔ながらの「厨房内で働く何でも屋さん」的な業務もまだまだありますが、これからは、チーム医療の一員としての何でも屋さんをめざし、患者さんの症状がすこしでも良くなるように今後も努力していきたいと思っています。

### 当院での薬局業務



医療法人米沢記念  
桑陽病院

薬局長 青木 典子

当院は昭和46年、菅原道真公を祀った神社天神様のある防府市に31床の米沢内科病院として設立されました。現在は診療科も増え、内科・整形外科・リハビリテーション科・人工腎臓センター他運動施設VIVA・SOYOを併設しております。病床数は108床（一般病床60床、療養病床48床）です。私達は経営理念「赤心如水」のもとすべての患者様に真心を添え質の高い医療サービスを提供できるように日々研鑽を怠ることなく努力をかさねています。

現在の主な業務は院外処方箋のチェック、入院患者様への薬剤の投与、がん化学療法に伴う注射薬の調製、薬剤管理指導料算定に伴う業務（入院患者様への服薬指導、注射薬の払い出し、DI業務など）、また外来初診時における他院の服用薬や入院時持ち込み薬の鑑別などを薬剤師2名と薬剤助手1名で行っております。

このような業務の中で、30数年勤務してきた私にできる事は何であろうかと考えます。それはチーム医療の充実ではないかと思えます。患者様はもちろんですが、病院に勤務される方々との「和」を大事にし、他職種の医療従事者とのコミュニケーションを良くすることで患者様へのサービスの向上に繋がるのではないかと思えます。またできる事なら高齢化に伴う服薬管理などの地域の方々へのサービス、所謂「薬薬連携」にも協力できればと思っています。課題は山積みです。「希望を現実に」楽しくがんばります。

## 病院スタッフコーナー

### チーム医療における看護部門の役割



医療法人仁徳会  
周南病院

看護師 道岡 綾

当院は「すべての人の笑顔のために」という理念のもと、地域にひらかれた医療を目指しています。病床数は56床の療養型の小規模病院です。

今年度の看護部門の目標は、①エビデンスに基づいた安全で安楽なケアを継続的に提供する、②多職種と連携してチーム医療を実践する、③患者の生活環境の快適さを探求したケアを提供する、④スタッフ間の協力体制のもとでワークライフバランスを充実させるとし、看護師19名、介護士19名で目標達成にむけた活動をしています。

当院では寝たきりの患者さまも多く、日々の看護ケアによって症状の悪化を防いだり、予防できることも多々あります。現在、私達は褥瘡ケアの充実、肺炎予防のための口腔ケアの実践に力を注いでいます。

褥瘡ケアにおいては、適切なマットレスの選択、ドライスキンに対する保湿、フィルムによる予防的保護、患者さまの状態に応じた体位変換を実施しています。また、褥瘡委員を中心に医師やコメディカルと褥瘡の治癒ならびに改善を目指して月に1回褥瘡回診を行っており、徐々にその効果が現れてきています。

口腔ケアにおいては、オキシドール希釈液や重曹水、白胡麻油などを使用し、口腔内の乾燥を防ぎ清潔に保つことにより、肺炎の予防に繋がるよう取り組んでいます。

看護スタッフひとりひとりが、多職種チームにおいて「看護の力でできることは何か」を考え、意見を出し合いながら、より良い看護を提供できるよう日々努力しています。患者さまにもスタッフにも笑顔の溢れる病院になっていくよう、私も看護部門の一員としてこれからも看護技術の向上に努めたいと思います。

### 心のこもった食事と栄養を目指して



医療法人新生会  
いしい記念病院  
診療部 診療技術課 栄養室  
管理栄養士

小山 友子

当院は、昭和13年に内科の石井医院、昭和29年に精神科の岩国新生病院が開設し、平成12年に両院を統合し、現在のいしい記念病院となりました。病床数207床（精神一般病棟43床、精神療養病棟54床、認知症治療病棟50床、医療療養病棟60床）の病院です。また、医療法人新生会として昭和33年に発足、47年に院内託児所を設立、平成4年に老健を設立し介護分野にも積極的に取り組んでいます。

当院の特徴は、精神科・内科の病棟があることにより、精神疾患・内科疾患の両方を有する患者様への対応ができることです。特に精神科に入院されている患者様の高齢化に伴い、内科的治療の必要性が高くなっており、そのため、患者様の状態にあわせた食事提供が必要であり、食事も多種多様になっています。

さまざまな食事を工夫するには、病棟スタッフからの情報は、管理栄養士にとって何よりの“知恵”となります。その食事内容に応じる調理スタッフの努力もあり、“食べられる食事の提供”が実現します。さらに病棟スタッフからの摂取状況・評価が管理栄養士へとフィードバックされ、次の工夫につながります。多くの職種が支え合い、助け合ってこそ、患者様のためになる“栄養”を提供できると思います。

私は、当法人に勤務して、病院開設、台風による厨房の浸水被害、感染症への対応等、多くの経験の中で、常に患者様へ食事を届けることが、管理栄養士の大きな役割であると痛感しています。栄養管理を重要視される時代となりましたが、これからも『心のこもった食事づくり』へのこだわりを大切にしながら、直営の管理栄養士として、治療の一環、生活の一環となる食事・栄養管理を目指していきたいと思っています。

## 四県病院協会連絡協議会報告

平成25年1月25日（金）広島市のホテルグランヴィア広島において、山口・福岡・広島・岡山四県の第18回四県病院協会連絡協議会が開催された。

当日は山口県病院協会より、木下会長他3名が出席し、他県からの役員22名、今回オブザーバー（大分県病院協会、香川県立中央病院、国立病院機構香川小児病院）として参加した6名を合わせて総勢32名が一同に会し、初めに、各県病院協会の実施事業の状況について説明があり、続いて各県が提出した議題についてそれぞれ発表を行い、活発な意見交換が行われた。

各県病院協会が提出し意見交換された議題は次の通りである

- 1) 各県病院協会事業の実施状況について（各県資料交換）
- 2) 24年度診療報酬改定影響度調査の結果について （山口県提案）
- 3) 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業（福岡方式）について （福岡県提案）
- 4) 医療情報ネットワークシステム（晴れやかネット）の整備について  
予備議題：政治や行政に対する意見・要望等の集約方法と反映方策について （岡山県提案）
- 5) 第30回大分県病院学会（平成24年度11月11日開催）報告 （大分県提案）
- 6) 医療計画策定状況及び地域医療再生計画における地域医療連携情報ネットワーク  
整備の進捗状況と課題について （広島県提案）

なお、次回平成25年度の開催は山口県の引き受けとなります。

## 医療経営講習会報告

### 平成24年度 冬季医療経営講習会

平成25年2月15日（金）、ホテルニュータナカにおいて、平成24年度冬季医療経営講習会が開催され、56名の参加があった。

講師の前原和平氏は、未曾有の災害となった平成23年3月11日に発生した東日本大震災時の病院内や地域の状況、また2年を経過しようとしている現在の福島県内の医療機関の現状についていろいろなデータを示しながら講演をされた。

今回のテーマは地震という自然現象による災害のため、実際に体験していない身ではなかなか現実としてとらえにくい内容ではあるが、備えあれば憂いなしのことわざ通り、自分自身の問題としてうけとめ、多くの職員や患者さんを抱える病院として果たす役割について考えさせられるものであり、参加者は真剣に受講していた。

講習会のテーマ・講師は以下のとおり。

#### 【講習会】

テーマ 「東日本大震災：福島県下病院の被災状況」

講師 福島県厚生農業協同組合連合会  
白河厚生総合病院  
病院長 前原 和平 氏



前原 和平 氏



講習会風景

## 研修会報告

### 平成24年度 病院看護師長研修会

平成24年12月12日（水）、山口県総合保健会館第1研修室において、看護師長研修会が開催され、105名の参加があった。

講師の兼安久恵氏は、看護師がいきいきと働き、成果を上げていくためのキーワードは「意識の組織づくり」であり、そのためにはメンター（支援者）の存在が重要であり、メンバー一人ひとりを「成熟した個＝自立した個」に育てるメンタリング・マネジメント力を高めることが看護の発展につながるポイントであると強調された。

講師の鍋山祥子氏は、さまざまな社会変化においてワーク・ライフ・バランスの必要性について解説されたのち、新しい時代を生き抜くキーワードとして3つの「つ」、①制度があれば「つかう」②なければ「つくる」③ニーズでつながるパイオニアとなる「つながる」について、事例を上げながら講演された。参加者は身近な問題の講演に真剣に受講していた。



兼安 久恵 氏



鍋山 祥子 氏



研修会風景

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

#### 【研修会】

テーマ 「メンタリング・マネジメント」

講師 山口県看護協会

前会長 兼安 久恵 氏

テーマ 「これから、ワーク・ライフ・バランスが必要になる理由」

講師 山口大学 経済学部

教授 鍋山 祥子 氏



社会福祉法人恩賜財団  
山口県済生会下関総合病院  
看護師長 林 雅代

#### 病院看護師長研修会に参加して

平成24年12月12日、病院看護師長研修会において、兼安久恵先生、鍋山祥子先生の講義を受けさせて頂いた。

兼安先生による「メンタリング・マネジメント」について感じたことは、講義を聞くことそのものが、私たち看護師長のメンタリング・マネジメントであったということである。講師は長きにわたる臨床経験と教育者としての立場から、まずは私たちがメンターとなることの重要性を教えて下さった。私たちは講師の熱いメッセージを受け止め、自身が管理する部署のメンターを育成していく責任がある。そのためには、この学びを信用し、率先して直ちに行動に移す必要がある。スタッフ一

人ひとりをよく観察し、現場で起きている事象を客観的・好意的に受け止め、自らが良きメンターとなり、中堅・ベテラン看護師をメンターとして育成していきたい。

鍋山先生による「これから、ワーク・ライフ・バランスが必要になる理由」については、当院の施策を内外にアピールして活用してもらい、大切な人材であるスタッフが、生涯自院で働き続けられるよう支援していきたいと感じた。

コミュニケーションのデジタル化に伴う人間関係の希薄化、ライフスタイルの変化に伴うワーク・ライフ・バランスの必要性が問題視されている今日、自部署においても、世代間における人間関係の構築、乳幼児を抱える職員のサポートが、人財育成、組織力強化における課題であった。当研修会に参加できたことは、これらの問題をタイムリーに解決する良い機会となった。この学びを、看護師長としての現場実践に活用していきたい。

## 諸会議報告

### 平成24年度 第5回常任理事会

日時 平成25年1月18日（金）15：30～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

#### 【承認事項】

1. 平成24年度診療報酬改定影響度調査結果報告書について
2. 平成24年度冬季医療経営講習会の開催について
3. 事務長部会第1回全体幹事会の開催について

#### 【協議事項】

1. 四県病院協会連絡協議会の各県提出議題について
2. 県医師会役員との懇談会開催について
3. 病院看護職員県知事表彰の推薦案内について
4. 平成24年度臨時総会の開催について
5. 平成25年度定期総会開催日程について

#### 【報告事項】

1. 県行政委員等の推薦について
  - ・山口県訪問看護推進協議会委員（再任）  
常任理事 三好 正規
2. 県各種委員会等の報告
  - ・木下会長  
山口県医療対策協議会（第1回）  
山口県医療審議会（第1回）
  - ・小田副会長  
山口県看護職員確保対策協議会  
県民の健康と医療を考える会
  - ・天津事務局長  
「山口県における医療従事者の勤務環境の改善」に関する企画委員会  
県民の健康と医療を考える会
3. 平成25年医療関係団体新年互礼会報告

### 平成24年度 第6回常任理事会

日時 平成25年3月7日（木）15：30～17：00

開催場所 山口グランドホテル

#### 【承認事項】

1. 平成24年度病院協会決算予測について

#### 【協議事項】

1. 平成24年度理事会及び臨時総会について
2. 平成25年度定期総会及び特別講演について

#### 【報告事項】

1. 総務委員会協議事項について
2. 四県病院協会連絡協議会について
3. 県各種委員会等の報告について
  - ・木下会長  
山口県医療審議会保健医療計画部会  
山口県医療審議会医療法人部会
  - ・水田常任理事  
山口県感染管理看護体制強化推進委員会  
山口県医療費適正化推進協議会
  - ・神徳常任理事  
山口県訪問看護推進協議会
  - ・竹重常任理事  
健康やまぐち「がん対策分科会」
  - ・天津事務局長  
山口県配偶者暴力相談支援連絡協議会
4. その他
  - ・日本医療法人協会全国セミナーの後援について
  - ・中外製薬 医療経営Webセミナーについて

### 平成24年度 第3回総務委員会

日時 平成25年2月5日（火）15：00～16：30

開催場所 新山口ターミナルホテル

#### 【協議事項】

1. 叙勲受章候補者について
2. 平成25年度県選奨受賞候補者の選定について
3. 平成25年度県知事表彰（看護職員）候補者選定について
4. 平成25年度県知事表彰（救急医療）候補者選定について
5. 平成25年度病院優良職員の表彰について
6. 山口県病院協会会員名簿の作成について
7. 平成25年度山口県病院協会事業計画について

### 平成24年度 第4回情報管理委員会

日時 平成25年3月15日（金）15：00～17：30

開催場所 新山口ターミナルホテル

#### 【協議事項】

1. 4月号の発行について
2. 7月号の発行準備について



# 事務長部会コーナー

## 平成24年度 第2回山口県病院事務長部会総会・研修会

平成25年3月8日（金）新山口ターミナルホテルにおいて、平成24年度第2回山口県病院事務長部会総会及び研修会が開催され、53名の参加があった。

### 【総会】

議題 平成25年度山口県病院事務長部会新役員選任について

総会において新役員が選任された。

部会長 玉田 英生 氏（宇部興産中央病院 企画管理部長）

副部会長 橋本 雅徳 氏（周南記念病院 事務局長）

副部会長 嶋崎 隆郎 氏（都志見病院 事務長）

常任幹事 小野 靖 氏（いしい記念病院 事務部長）

〃 重政 義貴 氏（山口赤十字病院 事務部長）

〃 富成 信太郎氏（武久病院 事務部長）

ほか、幹事11名を選任した。

### 【研修会】

講演 「これからの病院経営—事務長の役割と実践—」

講師 財団法人 倉敷中央病院

副理事長 相田 俊夫 氏

総会・研修会終了後に意見交換会が開催され支部相互の課題など熱心な議論もあり親交を深めた。



総会風景



相田 俊夫 氏



研修会風景

## 平成24年度 第1回事務長部会幹事会

日時 平成25年2月21日（木）16:00~17:30

開催場所 新山口ターミナルホテル

### 【協議事項】

1. 平成25年度事務長部会役員改選について
2. 平成25年度事務長部会事業活動について

### 【講演】

テーマ 「人権に関する取組みの考え方」

講師 山口県環境生活部 審議監

人権対策室長 林 知史 氏



幹事会

## 山口県病院協会事務長部会・各支部会議報告

### 【周南支部】

平成25年1月30日（水）ザ・グラマシー（周南市）会議室

- 議題
1. 報告事項（次年度当番幹事等）
  2. 山口県病院協会事務長部会周南支部幹事の選出について
  3. 災害対策の取り組みについて意見交換
  4. その他



周南支部

### 【岩国・柳井支部】

平成25年2月13日（水）岩国シティビューホテル 会議室

- 議題
1. 支部会の運営等について
  2. 役員改選について
  3. その他情報交換等

研修会 テーマ 「山口県の防災対策」

講師 山口県総務部防災危機管理課  
主幹 森重 孝之 氏



岩国・柳井支部

### 【宇部・小野田・美祿支部】

平成25年2月18日（月）国際ホテル宇部 会議室

研修会 テーマ 「大規模災害時の対応について」

講師 宇部・山陽小野田消防局  
次長 中野 公次 氏



宇部・小野田・美祿支部

# お知らせコーナー

## 山口県医師会三役との懇談会

平成25年1月31日（木）、山口市湯田温泉「割烹 福助」において、恒例の県医師会との懇談会が開催された。医師会からは小田悦郎会長他計5名、病院協会からは木下毅会長他計4名が参加して、県内の医療情勢・地域医療連携・災害時の医療体制・医師不足問題等について活発な意見交換が行われた。

## 平成24年度診療報酬改定影響度調査結果報告

山口県病院協会では昨年10月に平成24年度診療報酬改定に伴う影響度の調査を実施し、全会員138病院のうち123病院から回答が得られ、回答率は実に89.1%の高率となった。

調査はアンケート形式とし、平成24年4月～6月の診療実績と前年同期を比較した収益等への影響をはじめ、施設基準、看護体系の変更、感染防止対策加算、医学管理等として特掲診療料の取得状況、在宅医療等について行った。今回特に、取得している施設基準の維持・管理において苦勞している点や次期診療報酬改定に対する意見・要望等の回答を得る事ができた。

報告書は会員138病院及び日本病院団体協議会11団体に配布するとともに、1月25日に広島市で開催された四県病院協会連絡協議会では山口県病院協会からの提案議題とし、また1月29日には小田副会長、水田常任理事及び天津事務局長の3名により山口県健康福祉部を訪問し、調査結果の報告を行った。

なお、「平成24年度診療報酬改定影響度調査結果報告書」は山口県病院協会ホームページ（<http://www.yha.or.jp>）に公開している。

## 日本医療機能評価認定病院の紹介

○付加機能評価（緩和ケア機能）で認定

・総合病院山口赤十字病院 12月7日

山口県内の日本医療機能評価認定病院39病院のうち、付加機能評価の認定は2病院となっている。

## 会員等の移動

会員の變更

・医療法人周友会 豊北病院 理事長 橋本 興（変更前 理事長 入船 龍也）

・医療法人周友会 徳山病院 病院長 入船 龍也（変更前 病院長 赤尾 伸二）

法人名變更

・医療法人周友会 徳山病院 （変更前 医療法人豊愛会 徳山病院）

・医療法人周友会 豊北病院 （変更前 医療法人豊愛会 豊北病院）

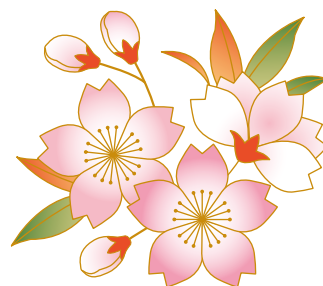
## 病院協会の主な行事予定

○4月26日 第1回常任理事会 （会場：新山口ターミナルホテル）

○5月14日 第1回理事会 （会場：新山口ターミナルホテル）

○5月23日 山口県病院協会定期総会 （会場：山口グランドホテル）

○6月18日 初級職員研修会 （会場：山口県総合保健会館）



### 編集後記

アベノミクスの効果であろうか？昨年12月の第二次安倍晋三内閣発足から、日経平均株価は上昇を続けており、日本経済は上向いているように見える。本県が生んだ首相の順調な滑り出しは喜ばしいことである。さりとて医療関係者として手放しで喜んでばかりもいられない。早速TPP交渉への参加表明が発表されたし、1年後には消費増税と同時に診療報酬改定が迫っている。現政権では、経済・金融政策については盛んに取り沙汰されるものの、医療政策に関してはまだ目玉といわれる施策が見当たらないが、これから参議院選挙を経て、徐々に明らかにされてくるものもあるだろう。注意深く見守ることが必要である。  
(尾中宇蘭)